

第二次瑞浪市環境基本計画(後期)施策進捗状況

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値				目標値 (令和5年度)	達成状況	進捗状況	
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度				
1 瑞浪市の 風土の基 盤である 里地・里 山や河川 等水辺の 維持・保 全を図り ます		地元の農畜産物を食べるように心がけている市民の割合		農林課	72.8%	69.5%	55.7%	56.6%	77.4%		豚熱（CSF）により生産がストップしていた瑞浪ポーノポークが令和元年度に復活しました。また、ポーノポークハム工房“瑞浪”の完成と肉工場の改修をきっかけとし、目標達成に向けてPRを行っていきます。	
	① 里山の保全 と活用	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律に基づく被害防止計画を策定し、鳥獣被害対策実施隊による加害鳥獣の駆除を行います。	年間被害額	農林課	116.1万円/年	112万円/年	186万円/年	95万円/年	0円/年		平成28年度と比較し、令和元年度は豚熱（CSF）によりイノシシが減少したため18%減となりました。	
			被害防止計画 駆除頭数	農林課	700頭/年	681頭/年	686頭/年	98頭/年	700頭/年		従来実施している農作物被害防止等を目的とした有害鳥獣の捕獲に加えて、平成30年度に発生した豚熱（CSF）により、岐阜県が野生イノシシへの経口ワクチンの散布及びその効果確認のための調査捕獲を実施しています。そのため、瑞浪市の有害鳥獣捕獲数は減少していますが、岐阜県の調査捕獲と合計して、令和元年度は362頭捕獲しています。	
	② 食と生命を 支える農地 の保全と修 復	農産物等直売所出荷登録者数を増やします。 優良農地の現状を維持若しくは面積を増やします。	登録者数	農林課	189人	190人	196人	201人	230人		JAとうと主催の野菜づくり塾を通じて、登録者数の増加を図りました。	
			ほ場整備面積	農林課	389.0ha (累計)	395.24ha (累計)	400.00ha (累計)	402.43ha (累計)	406.5ha (累計)		岐阜県が実施主体となり、鶴城ほ場整備が実施されており、令和2年度を最終年度として順調に施工されています。	
③ 地域の水循 環の保全と 修復	所有する森林に対する補助事業等を活用し、間伐等の整備を行います。 ため池整備事業を活用した農業用ため池の整備を行うとともに、災害防止のため、利用のなくなったため池の廃止を行います。	間伐面積	農林課	556.27 ha (累計)	672.08ha (累計)	779.78ha (累計)	916.88ha (累計)	800.00ha (累計)	◎	ぎふ森林環境税を活用した事業や、林業経営者による間伐が行われており、目標を達成しました。		
		整備及び廃止件数	農林課	廃止措置 未実施	0箇所	0箇所	0箇所	未利用ため池の調査結果に基づき令和元年度以降順次廃止		令和2年度に農業用水として利用実態がなく、防火用水としての利用のみをしているため池1箇所を廃止予定です。		
④ 多様な動植 物の生息・ 生育環境の 保全と創出	生物多様性の保全のため、特定外来生物の調査や駆除を行います。	オオキンケイギク 駆除重量	環境課	90kg/年 ※乾燥後の重量 になります	190kg/年 ※乾燥後の重量 になります	970kg/年 ※乾燥前の重量 になります	1,290kg/年 ※乾燥前の重量に なります	1,500kg/年 ※乾燥前の重量に なります		土岐川清掃時に駆除を行っており、国道（瑞浪国道維持出張所）、県道（多治見土木事務所）、市道（瑞浪市役所土木課）、民間エリアについても発見次第、所有者（管理者）に駆除をお願いしています。今後も啓発等を行い、駆除拡大を図ります。		
2 市民一人 ひとりが 環境に配 慮し行動 すること で、生活 の質の向 上につな げます		ごみの4R活動に取り組んでいる市民の割合		環境課	76.4%	77.6%	68.6%	72.5%	81.0%		平成28年度より3.9%減少しています。広報等で廃棄物減量の周知を図ります。	
		省エネルギー・新エネルギーへの取組みをしている市民の割合		環境課	50.0%	51.2%	49.0%	47.8%	59.1%		令和元年度から蓄電システム、次世代自動車充電システム（V2H）等に補助金を交付しています。引き続き広報や環境フェア等で周知を行い、普及を推進していきます。	
		水洗化推進により、市内の川、身近な水路がきれいになったと感じている市民の割合		上下水道課	63.5%	64.8%	71.4%	65.3%	66.3%		検針の際に下水道の接続や合併処理浄化槽の転換を依頼する文書を配布していることに加え、広報で呼びかけをしています。また、合併処理浄化槽の設置に対する補助金を国・県の補助基準額に上乗せすることで水洗化を促進しています。	
	① 循環型社会 づくりの推 進	資源ごみリサイクル率の向上に努めます。	リサイクル率	クリーンセンター	21.2%	20.8%	20.5%	19.6%	26.0%		平成28年度と比較し、令和元年度は1.6%減少しました。主な要因は、生徒・児童の減少により学校等で開催する資源集団回収量の減少及びスーパー等の民間収集場に排出されていることが挙げられます。	
			可燃ごみ・不燃ごみ処理量の削減を進めます。	焼却量	クリーンセンター	10,499t/年	10,350t/年	10,446t/年	10,460t/年	10,000t/年以下		平成28年度と比較し、令和元年度は0.4%減少しました。主な要因は、家庭ごみの収集量の減少が挙げられます。今後ごみ処理手数料の見直しを予定しているため、それに伴い更に改善予定です。
				埋立量	クリーンセンター	2,185t/年	2,486t/年	2,296t/年	2,506t/年	2,000t/年以下		平成28年度と比較し、令和元年度は14.7%増加しました。主な要因は、事業者持込ごみの増加が挙げられます。今後は産業廃棄物の種類の見直しにより改善予定です。
			使用済小型家電回収品目の拡充をします。	回収品目	クリーンセンター	15品目	22品目	22品目	23品目	23品目	◎	令和元年度に1品目（電気（電子）楽器）を追加し、目標値である23品目を達成しました。
	② エネルギー 循環の効率 化	公共施設におけるCO2削減に努めます。	削減率	環境課	△3.4% (平成25年度比)	+2.7% (平成25年度比)	△1.5% (平成25年度比)	△15.1% (平成25年度比)	△10.0% (平成25年度比)	◎	スーパーエコスクールに認証された瑞浪北中学校が開校し、令和元年度にゼロエネルギー化を達成したことが、二酸化炭素排出量の減少に繋がっています。また、クリーンセンター等の施設における電力会社の見直しにより排出係数が減少したため、二酸化炭素排出量が減少しました。	
	③ 水質浄化対 策の推進	水洗化率の向上に努めます。	水洗化率	上下水道課	81.24%	82.20%	82.70%	83.00%	90.00%		検針の際に下水道の接続や合併処理浄化槽の転換を依頼する文書を配布していることに加え、広報で呼びかけをしています。また、合併処理浄化槽の設置に対する補助金を国・県の補助基準額に上乗せすることで水洗化を促進しています。	
	④ 健全な生活 環境の保全 対策の推進	空き家・空き地バンクが活用されるよう努めます。	成約件数	市民協働課	29件（累計）	38件（累計）	41件（累計）	45件（累計）	100件（累計）		空き家・空き地バンク成約件数を増加させるため、空き家・空き地バンク登録物件に限定で空き家に付随した農地を取得する場合、下限面積を20アールから0.1アールに引き下げました。引き続き、登録件数増加のため空き家・空き地所有者へバンク制度の周知を図ります。	

第二次瑞浪市環境基本計画(後期)施策進捗状況

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値				目標値 (令和5年度)	達成状況	進捗状況
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度			
3 瑞浪市らしい、風土を活かし人とのふれあいができる文化環境を創出します		自分のまちに誇りをもてる、魅力のあるまちなみだと感じる市民の割合		都市計画課	45.4%	45.3%	43.7%	49.9%	53.7%		まちなみ環境の維持のため、公共施設里親制度を利用し、市民との協働による都市公園の維持管理に努めています。
	② 瑞浪市らしい地域資源の保全と活用	中山道（大湫宿含む）に関する観光に取組みます。	ボランティアガイド利用者数	商工課	1,131人/年	2,059人/年	1,954人/年	1,597人/年	4,500人/年		平成30年度と比較して令和元年度は18.3%減少しました。団体客やツアーでの利用が減り、個人での利用が増えたことが減少理由と考えられます。今後は、ウォーキングイベントや中山道17宿歩き旅の内容等を引続きブラッシュアップし、団体客等の利用者数の増加を図ります。
		市内の指定文化財の指定件数の増加に努めます。	指定件数	スポーツ文化課	106件 (累計)	107件 (累計)	108件 (累計)	106件 (累計)	120件 (累計)		令和元年度に中山道が国史跡に登録されました。そのため、指定文化財に指定されていた琵琶峠と瑞浪一里塚の2件が減りました。目標を達成するため引き続き市内において文化財の調査を行っていきます。
	③ 愛着のあるふさとづくりの推進	文化施設・歴史案内等ボランティアによる講座等の開催により、市民が地域の歴史・文化と親しむ機会の創出に努めます。	ボランティアガイド登録者数	商工課	29人	22人	21人	20人	65人		ボランティアガイド登録数に大きな変動はありませんでした。引続き、事務局(地域交流センターときわ)及びかたりべの会(スポーツ文化課)と連携し、情報提供を行う等ボランティアガイドの募集を継続します。
4 市民の誰もが参加でき、継続性のある計画の推進体制を実現します。	① 行政と市民との協働体制の整備	里親制度による、公共施設の美化、保全活動を行う市民活動団体に対する支援を行います。	都市公園登録団体	都市計画課	18団体	17団体	19団体	18団体	23団体		里親制度利用者が高齢化等を理由に辞退する団体もあります。そのため、地域に対して里親登録を働きかけています。
			市道登録路線	土木課	131路線	124路線	156路線	166路線	132路線	◎	令和元年度は、連合自治会でのPRに加え電動草刈機の貸与、草刈刃の支給を新たに始めたところ、里親団体の登録数が平成30年度の156路線から166路線へ増加しました。
	② 環境教育・体験学習の推進	環境学習の機会創出に努めます。	環境学習実施回数	環境課	10回/年	9回/年	8回/年	11回/年	13回/年		出前講座をPTA等に提案することで、実施回数の増加を目指します。
		環境フェアみずなみを開催することで、市民の環境意識の向上に努めます。	入場者数	環境課	600人/回	700人/回	550人/回	1,000人/回	1,600人/回		令和元年度から健康まつりと合同開催とし、入場者数を増加させることができました。今後も新たな出展者を増やすことで、入場者数の増加に取り組んでいきます。
		自然観察会を開催します。	開催件数	スポーツ文化課	9回/年	9回/年	3回/年	6回/年	10回/年		自然観察会の開催数は減少傾向にありましたが、自然ふれあい館(竜吟の森)で開催する講座に加え、幼稚園等への出前講座の開催に取り組んだことから6件に増加しました。
③ 事業所の環境保全意識の向上	事業所に起因する悪臭や水質汚濁等の苦情に対し、原因及び対策に対する啓発と指導を継続していきます。	苦情件数	環境課	2件/年	6件/年	2件/年	3件/年	0件/年		基準を超過していない場合でも相談を受けますが、原因者が特定できる場合は協力を依頼しています。なお、令和元年度に環境基準を超過した事業所はありません。	